

令和4年度平塚市自殺対策会議 議事録

日 時 令和4年11月16日（水）14時～15時15分

場 所 平塚市役所本館 2階 218会議室

委 員 斎藤委員、深堀委員、大谷委員、内門委員、遠藤委員、高橋委員、高橋委員、山田委員、林委員、工藤委員

事務局 平塚市福祉部 岩崎福祉部長

福祉総務課 小菅課長、杉崎担当長、木村主査、石原主事

傍聴者 0人

（議題）

- （1）国及び県の自殺対策にかかる動向について
- （2）平塚市の自殺の現状と取組について
- （3）各委員からの情報提供、意見交換

【配布資料】

次 第

名 簿

座席表

資料1：令和3年中における自殺の状況

資料2：市内における自殺者推移

資料3：自殺対策プロファイル【平塚】

資料4：平塚市の取組（自殺対策推進状況調査票）

資料5：こころと命のサポート事業における取組

参考資料1：平塚市民のこころと命を守る条例

参考資料2：平塚市自殺対策会議規則

参考資料3：平塚市自殺対策会議傍聴要領

参考資料4：「気づいてくださいこころのサイン 2022 年度版」

参考資料5：中高生向けお守り型リーフレット・説明資料

参考資料6：チラシ「令和4年度 身近な・大切な方を亡くされたあなたへ」

- 開会に先立ち、岩崎福祉部長からの委嘱状交付及び挨拶
- 委員自己紹介及び事務局紹介
- 会議の公開について事務局からの説明

これより委員長による議事進行

議題（１）国及び県の自殺対策にかかる動向について、資料１をもとに事務局から説明。

【質疑】

委員長

資料を見ますと、未だにコロナ禍の影響が残っている印象がありますが、事務局としてはどのように分析をしているのでしょうか。

事務局

現在平塚市では、生活困窮者等、主に金銭面で生活に困っている方に向けてサポートをする窓口を設置しています。窓口の利用件数はコロナ禍の２年間で急増しました。後に説明する資料３を御覧いただくと、当市における主な自殺者の特徴として生活困窮者が挙げられています。生活困窮者の自殺者は、コロナ禍の影響により、さらに増加すると分析しています。

議題（２）平塚市の自殺の現状について、資料２～５をもとに事務局から説明。

【質疑】

委員長

御説明ありがとうございました。平塚市では、自殺対策に向けて様々な取り組みを行っているということがわかりました。委員の中でも様々な取り組みを行っていると思いますが、平塚市では、５０歳代の働き盛りの方の自殺が多い印象です。公益社団法人神奈川県労務安全衛生協会平塚支部（以下、協会と記載）から、御意見いただけますか。

委員

働いている人の過重労働、責任の重さ、職場の異動によるストレス等、様々な要因により、自殺が増加していると思います。それに対する協会の取組としまして、メンタルヘルス教育を各企業向けに行っています。今年度は特に企業のマネージャーやリーダークラスの方を対象に行いました。来年の３月にも実施を検討しています。

具体的な内容としましては、まずは職場で周りの方が気付くためのラインケアや、本人のセルフケア等で自殺予防につながっていく仕組み作りを大切にもらえるような内容となっています。

委員長

ありがとうございます。ラインケアやセルフケア、そして周りも含めて支援出来る仕組み作

り、気付きを促す研修はとても大切だと思います。

働き盛りの方の自殺が多いという点について、平塚労働基準監督署（以下、監督署）からも御意見いただけますか。

委員

働き盛りの方の自殺の原因は、過重労働から起因するメンタル不調の他にも、各種ハラスメントも挙げられます。監督署の対策としましては、各事業所における衛生管理者や産業医等に体制を整える呼びかけをし、こころの健康作り計画を作成し、1次、2次、3次予防の構築作りを重点に置き、促しています。

委員長

ありがとうございます。ハラスメントや過重労働はこころの問題、自殺の原因につながると思います。それではその他、何か御質問、御意見等ある方がいらっしゃいましたらお願いいたします。

議題（3）各委員からの情報提供、意見交換

委員長

それでは議題（3）に移りたいと思います。先ほど議題1で平塚市の自殺者の特徴として、生活困窮者が挙げられました。それに対し、神奈川県司法書士会（以下、司法書士会と記載）ではどのような取り組みを行っているのでしょうか。

委員

司法書士は自殺対策のゲートキーパーと考えられています。まず、債務整理という観点から、多重債務に陥った生活困窮者から相談を受けることがあります。相談者から、「助けてもらえなかったら死のうと思っていました」等言われることが多々あります。また、多額の負債を抱え自殺をされた御遺族の方から、相続放棄の手続き依頼があります。これらの自殺を考えている方や御遺族への対応として、ゲートキーパー研修を年2、3回司法書士会では行っています。最近では、インターネット、特にSNS上のいじめが多いため、今年度は「ネットいじめ」というテーマで研修を行いました。他にも、医療機関と連携し、自殺未遂者（ハイリスク者）が救急病院に搬送された場合、原因を伺い、法律問題を抱えている方には、司法書士会から病院へ相談員を派遣（ベッドサイド法律相談）し、相談室をお借りして相談を伺う体制をとっています。

委員長

ありがとうございます。さまざまな取り組みを行っていることがわかりました。その中でも、「ネットいじめ」というお話が出ましたが、平塚市教育委員会（以下、教育委員会と記載）から御意見いただけますか。

委員

「ネットいじめ」ということでしたが、いじめについては、先日文部科学省の「令和3年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」の中で、認知件数が公表されました。平塚市においても、いじめはいじめを受けた児童生徒が嫌な思いをした場合、いじめとして認知し、幅広くいじめとして捉えているため、認知件数としては増加傾向にあります。認知したいじめに対し、組織として早期に対応し、重篤化を防いでいくという体制をとっています。特に教職員がしっかりといじめに気付けるよう、個の力と組織の力を高めていく必要があると感じていますので、引き続き、担当者会等でさまざま働きかけをしています。

委員長

ありがとうございます。いじめは本人が気付いていないケースもありますので、教職員が気付いていけるととても良いですね。SNSという観点（ネットいじめ）からは、どのような取り組みをされているのでしょうか。

委員

SNSという観点では、まずは教職員が意識を高く持って取り組むべきですので、教育委員会で情報モラル教育の研修等を行い、それを踏まえて、子どもたちに向けて情報モラル教育を行っています。

委員長

SNSでは不特定多数の人と繋がれてしまい、特に匿名で利用できるSNSでは言いたい放題となってしまう、人を深く傷つけるリスクがあり問題となっていると思います。そして、最近とても気になることが、自殺ほう助で子どもたちがそういった人たちの餌食になっているケースがあります。それについて、教育委員会ではどのように考えているのでしょうか。

委員

現時点では、その事案に特化した対応は行っていないませんが、とても懸念している事案です。今後、担当者会等で取り扱っていきたい内容です。

委員長

子どもたちがそう言った人たちの餌食にならないよう、どう対処していくか真剣な議論が

必要かと思います。引き続きよろしくお願いします。

また、いのちの教育という点で、浜岳中学校区子ども読書活動推進協議会（以下、子ども読書活動推進協議会）ではどのように取り組まれているのでしょうか。

委員

子ども読書活動推進協議会では、小学校等で読み聞かせや、図書館、図書室の本の整備等を行っています。コロナ禍においては、保護者ですら小学校に入れない状況でしたので、読み聞かせもできない状況でした。しかし、昨年から徐々にですが、読み聞かせを再開しています。朝の15分の読み聞かせでは、教室に入ると、コロナの影響で子どもたちの表情が固く、凄くストレスを抱えている印象を受けました。そのため、まずは子どもたちに笑顔になってもらいたいという想いで、ふと心が軽くなるような、色々な事を忘れて笑ってしまうような本に特化し、読み聞かせを行いました。最近では、子どもたちの表情も出てきて、大きな声で笑ってくれるようになりました。引き続き、出来る限り読み聞かせを行っていきたいと思います。さらに、福祉総務課と協働で市のホームページ「いのちの尊さを伝える本」を毎月掲載していますが、より多くの若者に見てもらえるよう、市のホームページだけでなく、中央図書館Twitterにもツイートしてもらおうようにしています。SNSを活用し、少しでも若者が身近に利用してもらいたいと考えています。

委員長

ありがとうございます。コロナ禍で子どもたちの元気がなくなっているというのは悲しいですね。コロナというのは人と人を分断しますよね。それを意識し、どのようにして止めていくかという発想も必要になります。そういった意味では、ICTは直接会わなくても人と人が繋がるためのいい方法ですので、Twitterの活用はとても良い取り組みだと思います。

他にも、自殺対策でハイリスク者へのアプローチはとても大切なことですが、医療社団法人清風会富士見台病院（以下、富士見台病院）では、どのようなアプローチをしているのでしょうか。

委員

富士見台病院では、さまざまな病状の方が外来から来院されます。本人の意思で来院される方はちゃんと「死にたい」と仰ってください、コロナの閉そく感や世の中の景気の悪さ、芸能人の自殺報道等の理由により病状が悪化している方もいますが、通院や入院や訪問看護等の提案をすることで、なんとか自殺を未然に防いでいるケースが多くあります。しかし、自殺未遂で総合病院に救急搬送され、総合病院からの紹介で富士見台病院に転院される方の中には、親御さん等の御家族からの理解が得られず、入院に抵抗があり、このまま退院すると危ない状況でも、病院にそこまでの強制力はないため、「この人はこのまま自殺してしまうんじゃないか」と思っても、御家族の判断により早期退院し診察が終了してしまうケース

があります。また、コロナの影響により、多職種と情報共有の場を設けづらくなり、連携して見守りをしたいと思っても、難しいケースもあります。他にも、被雇用者が患者の場合、企業の産業医と連携をしたくても電話のみの対応や、どちらかという和被雇用者より企業側の立場であり積極的に連携をとっていただけず、対立してしまうケースがあります。

委員長

どうしたら企業と上手く連携していけるかが課題だと思いますが、協会としてどのようにお考えでしょうか。

委員

企業といっても、産業医のいないような小さい企業や、産業医だけでなく相談室やカウンセラー等しっかり整っているような大きい企業もあるかと思います。そもそも、パワハラの原因がカウンセラー自身のため、どこにも相談できないというケースもあります。そういった方々を第三者の立場から救えるような仕組みを作っていきたいと考えています。

委員長

ありがとうございます。厚生労働省では、治療を受けながら安心して働ける職場づくりを支える働きかけをしています。監督署から御意見いただけますか。

委員

治療と仕事を両立する、いわゆる両立支援では、治療の原因が過重労働等の職場環境の場合は、行政指導をすることで是正していきます。ただ、治療の原因が職場ではない場合は、監督署としての行政指導に至りません。他にも、産業医は主に内科や外科の先生で、精神科医が産業医を務めるケースはあまりありません。その場合は、外部の専門医に繋いでいくか、厚生労働省の「こころの耳」等の活用、産業保健総合支援センター等と連携していきながら対応をしています。

委員長

今の話を踏まえまして、富士見台病院から御意見いただけますか。

委員

精神科医が産業医を務めるケースはあまり無く、よくわからず曖昧な対応になってしまうという場合はあると思います。その曖昧な部分に外部が介入していけると、より良くなると思います。

委員長

中小企業の産業保健は、メンタルに限らず課題があると思います。今後開業医と上手く連携が進んでいければと思います。ぜひ諦めず、引き続き双方からアプローチをしていただきたいです。一般社団法人平塚市医師会（以下、平塚市医師会）からはいかがでしょうか。

委員

平塚市医師会では、令和4年度から精神科部会を立ち上げました。精神科部会では精神科診療所、精神科病院と連携、情報共有等を行っています。身体的な不調が精神疾患に関連するケースがありますので、かかりつけ医も精神疾患について学び、早期発見から連携をとっていけたらと考えています。

委員長

ありがとうございます。市において、精神部会は非常に重要な役割を持っていると思います。不調を感じている人たちが、必ずしも最初から精神科に受診するとは限りません。そういう時にかかりつけの先生が気付いて対応してくれることは、とても大切なことだと思います。引き続き、精神部会の取り組みを充実していただけたらと思います。

その他にも、平塚市の自殺者の特徴として、高齢者が挙げられています。社会福祉法人平塚市社会福祉協議会（以下、社会福祉協議会）から御意見いただけますか。

委員

社会福祉協議会では、平塚市から委託を受け、市役所1階で「くらしサポート相談」の窓口を開設しています。コロナ禍においては高齢者だけでなく、生活困窮の方からも相談を受け、令和3年度の相談件数は7,200件を超えました。くらしサポートで受ける相談は、直接「死にたい」と言ってくる方々ではなく、主に「収入が減った」や「仕事に就きたい」といった内容です。どの部署でも、どんな相談にも乗ることに取り組み、相談者に必要な支援に繋げることに努めています。このことを周知していく必要があると思います。

委員長

ありがとうございます。コロナによって、生活困窮の問題がより浮き彫りになったという印象があります。自殺を考える方は様々な悩み、課題を抱えており、特に経済問題は大きな課題だと思います。立ち行かなくなってしまうところを、なんとか支えることによって、結局いのちを支えることとなるので、とても重要な取り組みだと思います。周知については、現在どのような取り組みをしているのでしょうか。

委員

現在、福祉の分野だけでなく、地域生活課題全てに対応できる総合相談体制が求められて

います。地域や医療などのネットワークを生かし、更に市と連携して「断らない相談体制」を模索している状況です。

委員長

今後より周知をしていただき、外部と上手く連携をとっていくことがとても大切かと思います。他にも、平塚保健福祉事務所では様々な相談を受けるとありますが、どのような取り組みをしているのでしょうか。

委員

コロナ禍においては、例年と比べ十分な取り組みは出来ませんでしたが、今年度は会議の場を設け、情報共有、連携を図っていきます。会議の場では、コロナ禍において自殺者数が増加した壮年期（40～64歳）の方への対応策をテーマとして、自治体と事業所が連携し、どのような対策が出来るか検討していきたいと考えています。

委員長

ありがとうございます。資料を見ても壮年期の方、特に50代の方の自殺は特に多いため、若者の自殺対策合わせて引き続き推進をお願いします。

皆さまがそれぞれの分野で自殺対策に取り組み、連携することで相乗効果が生まれると思います。今後も連携を大事にしつつ、しっかりと取り組んでいただけたらと思います。引き続き、情報共有の場を設けながら、お互いに連携出来ること、協力出来ることを検討していきたいと思います。皆さまのご協力により、全ての議題は終了しました。それでは、以上で令和4年度平塚市自殺対策会議を終了します。